

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-1	<b>教育学部の理念</b> 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。 <div style="text-align: right;">(Webサイト)</div>	変更の有無  <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。		
A-2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; background-color: #d9ead3;"> <b>教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b>                      教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育研究と人材養成のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、教育の本質や理論の学習を基礎に、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」に基づいて現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。                 </td> <td style="width: 50%; background-color: #d9ead3;"> <b>教育学部の目的(Webサイト上)</b>                      上記の3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。                 </td> </tr> </table>	<b>教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b> 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育研究と人材養成のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、教育の本質や理論の学習を基礎に、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」に基づいて現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。	<b>教育学部の目的(Webサイト上)</b> 上記の3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。	変更の有無  <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
<b>教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b> 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育研究と人材養成のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、教育の本質や理論の学習を基礎に、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」に基づいて現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。	<b>教育学部の目的(Webサイト上)</b> 上記の3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。			
	<b>めざす学生像</b> 子どもの成長・発達を見ていくためには、幼児期の発達を十分に理解した上で、児童期、思春期へと理解を積み上げていく必要があります。教育学部では、「子ども理解」を基本理念とし、幼児教育、初等教育、教育科学の3つのコースが連携し、教育に関する理論の学習と教育現場での実習をバランスよく繰り返すことで、実践力、教育力、人間力の3つの力を備えた質の高い教育者を養成します。	変更の有無  <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。		
	<b>学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)</b>	変更の有無  <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。		
	[関心・意欲・態度] ① 自らを律する主体としての強さを身につけ、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身に付けている ② 教育に対する強い情熱や子どもへの愛情をもった態度で、幅広い教育現場で実践に臨むことができる [思考・判断] ① 幅広い教養に基づいた判断力と広い視野を持っている ② 専門的知識の習得や他者との学び合いから思考を発展させることができる ③ 人権意識をもった行動ができる [技能・表現] ① 子どもや教育に関する課題を発見し、取り組み、解決できる ② 専門性の能力を活用して子どもへの教育と支援ができる ③ 日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に付けている(KG学士力を参考) [知識・理解] ① 乳幼児期から児童期・青年期までの子どもの発達を体系的に理解している ② 乳幼児教育・学校教育・幅広い社会の教育活動や実践を理解している	変更の有無  <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。		

# 2018年度 自己点検・評価【教育学部】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 教育学部の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育学部の目的(Webサイト上)」は、A-2「教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「教育学部の目的(Webサイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:教育学部長)
	検証手続き	将来構想委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	随時(最終確認は3月教授会)
	検証エビデンス	教授会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。(予定:年 月)</span>	
検証プロセス	検証方法	学部長室会での協議の後、随時教授会において決裁。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	将来構想委員会・教授会議事録 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)                             </div> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画: )                             </div> </div> <input type="checkbox"/> その他 ( )
	周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-3	教育研究目標	変更の有無
目標1	(タイトル) Mastery for Serviceの精神を「教育」に焦点づけ、世界市民の一員として、「人を育てる人となる」ことに使命を感じ、そのように自らを育てる力量を育成すること。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 基礎演習とチャペルアワーを通して展開する本校学習メニューの構築。 教育学教育・教育者の育成においてMastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会を組織化する。	
目標2	(タイトル) 「教育とは何か」「人間とは何か」を不断に問いつつ、自ら理論と実践を往還し、教育学的思慮深さと自律的意思決定能力を有した教育者としての実践的行動力の基礎を育成すること。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	(狙い・内容) 新カリキュラムの全体としての理念を「学びの共同体」を通じて実現できるように、各授業でのアクティヴ・ラーニングの導入をすすめるため、「協同学習室」の利用率を高める。 教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化と参加率の向上。	

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教授会(議長:教育学部長)
	検証手続き(どこで)	教育学部教務委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期(いつ)	随時(最終確認は3月教授会)
	検証エビデンス	教授会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育学部教務委員会での審議を経て、学部長室会での協議の後、随時教授会において決裁。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他( )
	判断根拠	教務委員会・教授会議事録
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )	

# 2018年度 自己点検・評価【教育学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p>教育学部は、学部の教育目標を達成するために学位授与の方針(DP)に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。</p> <p>総合教育科目                      [キリスト教科目]                      建学の精神の前提となるキリスト教についての概括的な理解を与え、また、宗教性を背景とする人間とその広範な営みとしての文化の在り方についての深い洞察力をもたせるための科目</p> <p>[言語教育科目]                      外国語によるコミュニケーション能力を育成するための科目</p> <p>[情報科学科目]                      コンピュータ・リテラシーの基礎を学ぶための科目</p> <p>[教養教育科目]                      教育学研究の基礎となる幅広い教養と知識を身につけるための科目</p> <p>専門教育科目                      [学部共通専門教育科目]                      基礎演習や研究演習のようにゼミ活動を伴い大学に置ける学びの基礎と応用を主とする演習科目、教員免許取得のために法令上必要な教職に関する科目のうち全学校種に共通して必要な科目、現行の臨床教育学科のコア科目、特別支援学校教員免許取得に必要な科目、学部全体の教育に関わる科目</p> <p>[幼児教育コース・初等教育コース共通専門教育科目]                      小学校教員免許取得に必要な教科に関する科目のうち幼稚園教員免許のための教科に関する科目とすることが可能な科目</p> <p>[幼児教育コース専門教育科目]                      幼稚園教員免許および保育士資格取得に必要な科目</p> <p>[初等教育コース専門教育科目]                      小学校教員免許取得に必要な科目</p> <p>教育科学コース専門教育科目                      [教育科学コースコア科目]                      教育科学の諸領域について学ぶための科目</p> <p>[教育科学コース教職関連科目]                      中学校・高等学校の教員免許取得に必要な科目</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り  <input type="checkbox"/>無し                      ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれか)	教授会(議長:教育学部長)
	検証手続き(どこで)	教育学部教務委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期(いつ)	随時(最終確認は3月教授会)
	検証エビデンス	教授会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月) <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)</span>	
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育学部教務委員会での審議を経て、学部長室会での協議の後、随時教授会において決裁。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <span style="color: blue;">➡</span> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)  <span style="color: blue;">➡</span> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <span style="color: blue;">➡</span> <input type="checkbox"/>その他 ( )                     </div>
	判断根拠	教務委員会・教授会議事録
	周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまで培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多角的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>教育学部アドミッション・ポリシー</p> <p>教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような人材を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。</li> <li>● 高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。</li> <li>● 多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。</li> <li>● 関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。</li> </ul> <p>以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重みづけを行い、評価しています。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー</p> <p>1. 一般選抜入学試験</p> <p>一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。</p> <p>一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。</p> <p>全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。</p> <p>全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。</p> <p>理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語(学部個別日程のみ記述式含む)」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。</p> <p>一般入学試験関西独自方式日程は、英語・数学科型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。</p> <p>また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>



＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

## 2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。

### ① 国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問・適性面接審査では日本語および英語による面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを評価しています。二次審査では志望する学部面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

### ② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

### ③ インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込IB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

### ④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

### ⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。また、面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに学ぶ意欲、人間性を評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

## 3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

### ① 院内推薦入学

#### 1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

## 2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

## ② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

## ③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

## ④ 協定校推薦入学

### 1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

### 2) グローバル校

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

### 3) グローバル+キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、そして高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

## ⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

(略)

### 教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような人材を受け入れます。

- 人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
- 高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
- 多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。
- 関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

以上を募集方針の要素として、入学者を選考します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を提出された書類および面接によって選考します。

(略)

## ⑥ 指定校推薦編入学

人間福祉学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

教育学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。



＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

#### 4. 公募制推薦入学試験

##### 1) スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

##### 2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクールにおいて、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

(略)

#### 5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは“Mastery for Service(奉仕のための練達)”。これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

(略)

#### 教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような人材を受け入れます。

- 人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
  - 高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
  - 多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。
  - 関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。
- 以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するAO入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

(略)

#### 6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

<p>7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験</p> <p>「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。</p> <p>日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。</p> <p>こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。</p> <p>国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。</p> <p>8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験</p> <p>関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験</p> <p>この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。</p> <p>(略)</p>	
---	--

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	入試制度検討委員会
	検証手続き	入試制度検討委員会での審議を経て、教授会で承認する。
	決定・判断時期	随時(最終確認は3月教授会)
	検証エビデンス	教授会議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法	入試制度検討委員会での審議を経て、学部長室会での協議の後、随時教授会において決裁。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他( )
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )	

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-6

学生支援に関する方針	変更の有無
<p>教育学部の理念・目的にそった修学支援、生活支援、進路支援を実施する。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
<p><b>学びの組織的な支援</b> 教育のあらゆる現場で即戦力として活躍するには、4年間でどれだけ多くの現場を経験できたかが重要です。教育学部のカリキュラムでは、1年生から参加できる実習科目やフィールドワークを多く設けています。講義で学んだ知識を教育現場でどのように生かせるのか。現場での経験が着実に教育者としての力を育みます。実習前の事前指導やオリエンテーションでは、目的の確認や自己課題を設定するほか、実習における心構えや注意点を指導します。実習中は指導教員が訪問指導で学生をサポートし、実習後の事後指導ではディスカッションで実習を振り返り、実習で得た成果を身に付けます。</p> <p><b>初年次教育</b> 教育学部では、1年次に全員必修の「基礎演習」を開講しています。この「基礎演習」では、今後、大学生活の中で学習を進めていく上で求められる意識転換と、具体的に求められる学習上の技術を身につけることを目標としています。高校生から大学生への意識転換を促し、大学にある施設の機能の理解とそれらを利用しての学習方法や、今後、大学教育の中で求められる課題への取り組み方と、その方法の基礎を身につけさせます。また、何のために教育職につこうとするのか、それにはどんな能力が求められるのかなど今後の大学生活の中の自己課題を発見することを促します。 具体的には、教育に対する広範な学問的関心のあり方を重視しながら、 1. 教育学関係の学術的な文章を理解する 2. 教育問題について理論的に考え文章で表現する 3. 自分の考えをまとめ発表する 4. 図書館を利用して教育研究に必要な情報を得る などのことを学ぶこととしています。</p> <p><b>TA・RA・SA・メンターの活用</b> 関西学院大学では、2012年度秋学期より、新たな教育・学習支援の取り組みとして、ラーニング・アシスタント(LA)制度を全学的に導入しています。LAは関西学院大学で提供される科目を対象として、授業担当者の授業運営を補佐し、履修学生の指導や相談をとおして教育および学習の支援を行う学部学生スタッフです。教育学部では、この新たな試みを通じて、LAと履修学生とが共に学ぶ「ラーニング・コミュニティ」の形成と、LA自身のさらなる自己成長を期待して、本取組を推進していきたいと考えています。</p> <p><b>アカデミック・アドバイザー制度</b> 毎年、学生の年間単位修得状況により、その段階に応じて学生のみまたは学生及び保証人に面談を行います。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
<p><b>生活支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金制度(大学・大学院)</li> <li>・教育ローンについて</li> <li>・災害に伴う授業料等の減免</li> <li>・学生生活への援助</li> <li>・大学生協など</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>
<p><b>進路支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮上ヶ原キャンパスキャリアセンターが全学部生対象の支援をしているのに対し、聖和キャンパスキャリアセンターは主に教員・保育士を目指す教育学部生を支援しています。教育学部生のための支援という特徴を生かし、一人ひとりのニーズにあった支援を行っています。一人ひとりの学生の皆さんと向き合う中で、合格するためのテクニックではなく“先生になりたい”という熱い思いを伸ばす支援を心がけています。なお2017年度より、前年度まで教育学部で実施していた低年次対象のキャリア支援「未来塾」や「実技対策講座」などを、聖和キャンパスキャリアセンターで実施するようになったことや、キャリア支援を1年次まで拡大したことが大きな変更点である。</li> <li>(主な支援プログラム)</li> <li>個別進路・就職相談</li> <li>低年次対象のキャリア支援</li> <li>教員・保育士就職ガイダンス</li> <li>就職試験直前マナー講座</li> <li>論文講座</li> <li>履歴書・願書作成の個別面談</li> <li>個人面接練習</li> <li>集団面接・集団討論練習</li> <li>模擬授業練習</li> <li>模擬保育練習</li> <li>外部講師による筆記試験対策講座</li> <li>実技対策講座</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄				
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ				
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         (下記のことが明らかであることに留意する。)                          &lt;修学支援&gt;                          ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処                          ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施                          ・障がい学生に対する修学支援の実施                          ・奨学金等の経済的支援の実施                          &lt;生活支援&gt;                          ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内                          ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み                     </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ				
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ				
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ				
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが) 教授会(議長:教育学部長) 検証手続き(どこで) 教育学部教務委員会(教務内容), 室会[学生担当](学生指導内容), 就職支援委員会(就職支援内容)での審議を経て、毎年3月の教授会にて決済・承認 決定・判断時期(いつ) 随時(最終確認は3月教授会) 検証エビデンス 教授会議事録					
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年10月) <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。(予定:年 月)</span>					
検証プロセス	検証方法(どのように) 教育学部教務委員会・就職支援委員会での審議を経て、学部長室会での協議の後、随時教授会において決裁。 検証結果 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <input type="checkbox"/>検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。                             </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <input checked="" type="checkbox"/>検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。                             </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他                              ( )                         </td> </tr> </table> 判断根拠 教務委員会・室会・就職支援委員会・教授会議事録	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。		<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。						
<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他 ( )					
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他( )					

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-7

教員像	変更の有無
1. 関西学院のミッションステートメントやスクールモットーMastery for Serviceの精神を理解し、「学びと探求の共同体」の一員として、学生とともに、教育と研究に向き合おうとする教員。 2. 教育学(広義)の研究と教育を担う者として、また、教育学部における講義や演習の担当者として、学生自身が「子ども理解」を深め、人類の一員として教育を担うことの意味を発見できるように導くことのできる教員。 3. 研究活動と教育活動を共に、より意味豊かなものに充実させることのできる教員。 4. 学生の立場に立ち、学修や進路、学生生活上の相談に、親身に応じることのできる教員。 5. 大学の各種業務において、職員と協働することのできる教員。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

無しの場合どのように設定するか?	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針	変更の有無
定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、学部全体の教員組織の適切性を検討する。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

**A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認** チェック欄

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き(どこで)	将来構想委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期(いつ)	随時(最終確認は3月教授会)
	検証エビデンス	教授会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <span style="margin-left: 50px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)</span>
検証プロセス	検証方法(どのように)	将来構想委員会での審議を経て、学部長室会での協議の後、随時教授会において決裁。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 100px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他  <input type="checkbox"/>()                     </div>
	判断根拠	将来構想委員会・教授会議事録
周知・公表方法		<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()



＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

(ご参考)

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ アドミッション・ポリシーの見直しが行われたことは評価されます。主体性入試に期待しています。
- ・ また、昨年度まで策定されていなかった各方針が策定されたことは評価されます。(A)
- ・ 学生支援の方針は定められましたが、内容は現状で行われている支援の説明になっています。どのような目的で支援を行っているのかなど、「方針」と呼ぶにふさわしい表現をされることが期待されます。(B)
- ・ 適切性の検証が実施されており、評価できます。(C)
- ・ 検討予定であった項目については予定通り検討がなされています。CP については、科目カテゴリーが並べられているだけで、ポリシーの記述が十分ではないと思われます。(D)
- ・ A-6の進路支援について丁寧に見直しがされており、評価できます。(H)
- ・ DPとCPの関連性が分かりにくいので、DPを踏まえたCPの内容を検討することが望まれます。
- ・ CPでは能動的学修の充実として、アクティブ・ラーニングの取り組みに言及することが期待されます。(I)

＜評価専門委員・所見記入欄＞

- ・ 各方針について適切に検証が行われ、ブラッシュアップされていることが伺えます。(B)
- ・ A-3の目標1・2は「めざす学生像」の「教育力」「実践力」に対応していると理解しました。では「人間力」育成に対応するのはどこでしょうか。
- ・ A-4のCPに関する記述は科目(群)の列挙という印象を与えます。学力を発展、深化させるプロセスがもう少し伝わってくる記述が望ましいです。
- ・ A-4の確認欄中の「教務員会」の表記はこれでいいですか？
- ・ A-5の確認欄中の責任主体・組織が「入試制度検討委員会」となっていますが、「入試委員会(委員長・学長)」ではありませんか？
- ・ A-6の記述が「ですます」調と「である」調が混在していることが気になります。それは単に文体上の問題ではなく、ここに書かれていることが誰に向けてなされているのかの相違から生じているのではないのでしょうか？
- ・ A-7の教員組織の編成方針としては、職位(年齢バランス)やジェンダー・バランスなど、具体的な説明がほしいところです。(C)
- ・ 概ね適切な検証がなされているように察します。例えば教員組織の編制方針は現実としてどう検討するかについての記述になっているので、学部のCPや規模などからどういった組織がふさわしいかといったことについて今後検討され、方針に記されることが望まれます。(D)
- ・ 概ね適切な自己評価がなされており、評価できます。
- ・ A-3 教育研究目標2のアクティブ・ラーニングと「協同学習室」との関係についてもう少し詳しい説明があるほうがよいと思います。
- ・ A-6 学生支援に対する方針の学修支援の初年次教育で、教育者となることへの意識(付け)の大切さが必要なのではないでしょうか。(E)
- ・ 各種方針について適切かつ十分な検証が行われています。(F)
- ・ A-4カリキュラムポリシーの見直しが行われたことは評価します。変更点記述シートにおける変更理由については、なぜ見直す必要があったのかについて記述すべきであろうと思われます。
- ・ A-6学生支援に関する方針の見直しが行われたことは評価します。変更点記述シートにおける変更理由については、なぜ見直す必要があったのかについて記述すべきであろうと思われます。(G)
- ・ 各方針において適切性の検証体制が明確になっていることが評価できます。(H)



## 2018年度 自己点検・評価 【教育学部】

提出日:2019年2月22日

項目名	A-4 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; (変更前) [学部共通専門教育科目] 基礎演習や研究演習のようにゼミ活動を伴い大学に<u>置ける</u>学びの基礎と応用を主とする演習科目、教員免許取得のために法令上必要な教職に関する科目のうち全学校種に共通して必要な科目、<u>現行の臨床教育学科のコア科目</u>、特別支援学校教員免許取得に必要な科目、学部全体の教育に関わる科目</p> <p>(変更後) 基礎演習や研究演習のようにゼミ活動を伴い大学に<u>於ける</u>学びの基礎と応用を主とする演習科目、教員免許取得のために法令上必要な教職に関する科目のうち全学校種に共通して必要な科目、特別支援学校教員免許取得に必要な科目、学部全体の教育に関わる科目</p> <p>&lt;変更理由&gt; 現行の内容に書き改めたため。</p>
項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; A 票変更点記述シート(別紙1)のとおり</p> <p>&lt;変更理由&gt; 各学部の検証、入試内容の変更および新規入試制度導入に伴う変更 ※各学部のアドミッション・ポリシーは、大学のアドミッション・ポリシーとして入試委員会で検証しているため、全学共通で別紙のとおり変更</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針 修学支援
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt;</p> <p>(変更前) 学びの組織的な支援 教育のあらゆる現場で即戦力として活躍するには、4年間でどれだけ多くの現場を経験できたかが重要です。教育学部のカリキュラムでは、<u>1年生</u>から参加できる実習科目やフィールドワークを多く設けています。講義で学んだ知識を教育現場でどのように生かせるのか。現場での経験が着実に教育者としての力を育みます。実習前の事前指導やオリエンテーションでは、目的の確認や自己課題を設定するほか、実習における心構えや注意点を指導します。実習中は指導教員が訪問指導で学生をサポートし、実習後の事後指導ではディスカッションで実習を振り返り、実習で得た成果を身に付けます。</p>

## 2018年度 自己点検・評価 【教育学部】

	<p>(変更後)  <b>学びの組織的な支援</b>          教育のあらゆる現場で即戦力として活躍するには、4年間でどれだけ多くの現場を経験できたかが重要です。教育学部のカリキュラムでは、<u>2年生</u>から参加できる実習科目やフィールドワークを多く設けています。講義で学んだ知識を教育現場でどのように生かせるのか。現場での経験が着実に教育者としての力を育みます。実習前の事前指導やオリエンテーションでは、目的の確認や自己課題を設定するほか、実習における心構えや注意点を指導します。実習中は指導教員が訪問指導で学生をサポートし、実習後の事後指導ではディスカッションで実習を振り返り、実習で得た成果を身に付けます。</p>
	<p>&lt;変更理由&gt;          現行の内容に書き改めたため。</p>
<p>項目名</p>	<p>A-6 学生支援に関する方針 修学支援</p>
<p>変更内容とその理由</p>	<p>&lt;変更内容&gt;          (変更前)  <b>初年次教育</b>          教育学部では、1年次に全員必修の「<u>基礎演習</u>」を開講しています。この「<u>基礎演習</u>」では、今後、大学生活の中で学習を進めていく上で求められる意識転換と、具体的に求められる学習上の技術を身につけることを目標としています。高校生から大学生への意識転換を促し、大学にある施設の機能の理解とそれらを利用しての学習方法や、今後、大学教育の中で求められる課題への取り組み方と、その方法の基礎を身につけさせます。また、何のために教育職に<u>つこう</u>とするのか、それにはどんな能力が求められるのかなど今後の学生生活の中での自己課題を発見することを促します。</p> <p>(変更後)  <b>初年次教育</b>          教育学部では、1年次に全員必修の「<u>基礎演習Ⅰ</u>」を開講しています。この「<u>基礎演習Ⅰ</u>」では、今後、大学生活の中で学習を進めていく上で求められる意識転換と、具体的に求められる学習上の技術を身につけることを目標としています。高校生から大学生への意識転換を促し、大学にある施設の機能の理解とそれらを利用しての学習方法や、今後、大学教育の中で求められる課題への取り組み方と、その方法の基礎を身につけさせます。また、何のために教育職に<u>就こう</u>とするのか、それにはどんな能力が求められるのかなど今後の学生生活の中での自己課題を発見することを促します。</p> <p>&lt;変更理由&gt;          現行の内容に書き改めたため。</p>

## 2018年度 自己点検・評価 【教育学部】

項目名	A-6 学生支援に関する方針 修学支援
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; (変更前)</p> <p><u>TA・RA・SA・メンターの活用</u></p> <p>関西学院大学では、2012年度秋学期より、新たな教育・学習支援の取り組みとして、ラーニング・アシスタント(LA)制度を全学的に導入しています。LAは関西学院大学で提供される科目を対象として、授業担当者の授業運営を補佐し、履修学生の指導や相談をとおして教育および学習の支援を行う学部学生スタッフです。教育学部では、この新たな試みを通じて、LAと履修学生とが共に学ぶ「ラーニング・コミュニティ」の形成と、LA自身のさらなる自己成長を期待して、本取組を推進していきたいと考えています。</p>
	<p>(変更後)</p> <p><u>LAの活用</u></p> <p>関西学院大学では、2012年度秋学期より、新たな教育・学習支援の取り組みとして、ラーニング・アシスタント(LA)制度を全学的に導入しています。LAは関西学院大学で提供される科目を対象として、授業担当者の授業運営を補佐し、履修学生の指導や相談をとおして教育および学習の支援を行う学部学生スタッフです。教育学部では、この新たな試みを通じて、LAと履修学生とが共に学ぶ「ラーニング・コミュニティ」の形成と、LA自身のさらなる自己成長を期待して、本取組を推進していきたいと考えています。</p>
	<p>&lt;変更理由&gt;</p> <p>現行の内容に書き改めたため。</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針 進路支援
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; (変更前)</p> <p>・西宮上ヶ原キャンパスキャリアセンターが全学部生対象の支援をしているのに対し、聖和キャンパスキャリアセンターは主に教員・保育士を目指す教育学部生を支援しています。教育学部生へのみの支援という特徴を生かし、一人ひとりのニーズにあった支援を行っています。一人ひとりの学生の皆さんと向き合う中で、合格するためのテクニックではなく“先生になりたい”という熱い思いを伸ばす支援を心がけています。</p>
	<p>(変更後)</p> <p>・西宮上ヶ原キャンパスキャリアセンターが全学部生対象の支援をしているのに対し、聖和キャンパスキャリアセンターは主に教員・保育士を目指す教育学部生を支援しています。教育学部生へのみの支援という特徴を生かし、一人ひとりのニーズにあった支援を行っています。一人ひとりの学生と向き合う中で、合格するためのテクニックではなく“先生になりたい”という熱い思いを伸ばす支援を心がけています。</p>
	<p>&lt;変更理由&gt;</p> <p>評価専門委員の所見コメントを受けて修正</p>

## 2018年度 自己点検・評価 【教育学部】

項目名	A-6 学生支援に関する方針 進路支援
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; (変更前) なお2017年度より、前年度まで教育学部で実施していた低年次対象のキャリア支援「未来塾」や「実技対策講座」などを、聖和キャンパスキャリアセンターで実施するようになったことや、キャリア支援を1年次まで拡大したことが大きな変更点である。</p> <p>(変更後) 特に2018年度は、1、2年次対象未来塾(登録制)の内容を刷新した。教員・保育士を目指す学生を増加させるため、進路を迷っている学生でも受講することで、徐々にそれらを目指すようになる内容に改善した。</p> <p>&lt;変更理由&gt; 2018年度の実施内容を記述したため。</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針 進路支援
変更内容とその理由	<p>&lt;変更内容&gt; (変更前) (主な支援プログラム) 個別進路・就職相談 低年次対象のキャリア支援 教員・保育士就職ガイダンス 就職試験直前マナー講座 論作文講座 履歴書・願書作成の個別面談 個人面接練習 集団面接・集団討論練習 模擬授業練習 模擬保育練習 外部講師による筆記試験対策講座 実技対策講座</p> <p>(変更後) (主な支援プログラム) 個別進路・就職相談 低年次対象のキャリア支援 教員・保育士就職ガイダンス 就職試験直前マナー講座 論作文講座 履歴書・願書作成の個別面談 個人面接練習 集団面接・集団討論練習 模擬授業練習 模擬保育練習</p>

## 2018年度 自己点検・評価 【教育学部】

外部講師による筆記試験対策講座  
実技対策講座  
未来塾(登録制)

<変更理由>

未来塾(登録制)のプログラムについて、今年度から内容を変更して実施しているため。